

# ぶらりわが街宮沢界限

## (30)戦後のまちづくり—復興から今 — V — II —

### ○ 昭和飛行機工業(株)—不動産事業へ進出→「昭和の森」構想

昭和44年(1969)8月、戦後24年間にわたり米軍に接收解除が除外されていた昭島工場構内の飛行場と自然林区は全て返還された。この返還地の大部分が米軍専用のゴルフコースだったので、同年11月、パブリックゴルフ場(18ホールノパー72)を運営し営業開始。ここに経営基盤の強化をはかった、広大な社有地の有効活用した不動産賃貸事業の第一歩が踏みだされました。

・ 「昭和の森—昭島駅北側に接する構内地は、かねてより市の発展に寄与する秩序ある街づくりを求める声が高まっていた。そこで、長期経営戦略の一環として、商業・業務・スポーツ各施設を総合する「昭和の森」構想を展開することとし、50年(1975)12月昭島市・日本住宅公団(現UR都市機構)と協議し、「昭島駅北側地区開発計画」を発表。その基本方針は、公団に土地の一部を譲渡し、公団は集合住宅を建設する。・駅に隣接して業務、商業、スポーツの各区域を設け整備する。・公団と会社の折半負担で昭島駅北口の開設を国鉄(現JR東日本)に要請する。

54年(1979)3月、昭島市との間に「業務・商業・スポーツ各施設を行うことについての同意書」を交わし、敷地面積15万9300m<sup>2</sup>、建設面積2万9,920m<sup>2</sup>に及び開発計画がスタートした。

開発計画の決定を機に、工場地区を構内南西部約10万坪の土地に集約することになり、トラック組立関係は東工場へ移設、航空機器、ハニカム関係は西工場を再整備、あらたに板金・塗装・接着工場を新設など、総工費30億をかけた昭島工場施設の再配置は53年(1978)5月頃までに完了し、生産品目別に分けることで作業の効率をはかった。

航空機事業との関わり—接收一部解除後の32年(1957)から始まった民間輸送機YS-11、続くC-1計画にも参加、分担生産を行った。現在開発中のXC-2次期輸送機、P-1哨戒(しょうかい)機でも分担生産に参加している。平成18年(2006)10月、本社所在地を新宿区より昭島市に移転。現在、航空機事業は主力ではなく、特殊車両(タンクロータリーなど)やライフサポート機器、ハニカム構造体(汎用(はんよう)性の高い素材で芯材(しんざい)用)などの製造が中心である。

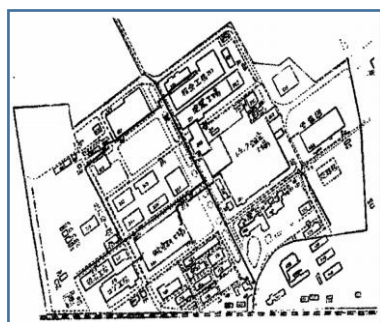
・ つつじが丘ハイツ=集合住宅25棟のニュータウンが出現、学校開校(小・中)—基本方針に基づき、51年(1976)8月、公団住宅建設用に社有地の一部を譲渡。55年(1980)8月、住宅表示実施によりつつじが丘1~3丁目が誕生。56年(1981)3月、つつじが丘ハイツの南側部分が入居開始により4月、市立つつじが丘南小学校・市立瑞雲(ずいうん)中学校開設。さらに57年(1982)、つつじが丘ハイツ北側部分が入居開始により、4月、市立つつじが丘北小学校開校。

・ 57年(1982)7月、市民会館(現KOTORIホール)・公民館開館・平成4年(1993)つつじが丘公園内に新幹線図書館(つつじが丘分室)開館。

・ 昭島駅(昭和34年(1959)10月1日、昭和前駅より改名)北口の開設は、諸般の事情により58年(1983)6月1日、ようやく駅橋上(きょうじょう)化と北口開設が実現した。

記

防犯宮沢支部 西山 禎一



工場施設配置図



トラック製造



昭島駅南口